

森林インストラクターによる教材研究—1枚の写真を通して

美しい空間と長い時間の流れ—百年生のスギ林から学ぶ

作成：寺嶋嘉春（てらしま よしはる／森林インストラクター）*

寸評：山下宏文（やました ひろぶみ／京都教育大学 教授）**

語り：「これはスギの林です。木と人の大きさを比べてみてください。ここには、幹の周囲が2m、高さが30m近くのスギの木が3,000本以上あります。これらのスギの年齢は、どれも百歳です。100年前に植えたスギの苗は約15,000本でしたが、苗木が成長して大きくなるにつれて少しずつ木を伐って減らし、1本1本の木に光と養分がしっかりといきわたるように手入れをしてきたのです。また、この場所はスギに適した土地で、両側の尾根が風を防いでいます。木を植える前に専門の技術者が調査したことが記録に残っています。

このスギの木が植えられた100年前の日本はどのような様子だったのでしょうか。日本はロシアと戦争をして勝ちましたが、これを記念して各地で植林が行われました。この森林は千葉県かのうの鹿野山さんという山にあります。この地域を中心に明治39年から10年間で1,000haの記念造林が行われました。そのうち現在残っている森林は、わずか5haです。「百年の森」を残すことは、それほど難しいことなのです。もし、おじいさんやおばあさんの若い時代に木を植えたとしても、私たちがおじいさんやおばあさんになるまで手入れをし続けて、やっと「百年の森」ができるのです。



◀百年のスギの林（千葉県鬼沼山おにぬま県営林）

森林は、先人が守り育てたものを受け継ぎ、次の世代へ引き継いでいくものです。「百年の森」には、森を育てるための知恵や工夫がたくさん活かされています。森林の未来について、考えてみてください」

意図（寺嶋）：子どもたちにとって、森林は自分の年を超える歳月を経ており、長い時間の流れを感じ取ることができる対象である。ちょうど100年の森林の写真で、子どもたちの興味を最大限に引き出したい。そこで何を感じるかを問いかけたい。100年生の森林の美しい空間と長い時間の流れから自然の偉大さを感じると同時に、この森林に私たちが出会えるのは、100年前に人の手で想いを込めて植えられ、100年にわたって手入れされてきたからだという事実気づいてほしい。環境教育においては、環境を良くする森林に着目させるだけでなく、その森林を守り育ててきた人々の存在に気づき、さらに背景となる社会や歴史、そして、未来に目を向けさせるようにしたい。

寸評（山下）：日本の美しい森林の姿を提示してほしいという要望を出して、教材を作成してもらった。「健全な森林はとても美しい」ということを感覚的にとらえさせなかったからである。そして、日本の森林に愛着を感じさせたい。こうした感性にかかわることなく、頭だけで森林の大切さを理解しても、自ら森林にかかわろうとする態度はなかなか育たない。また、森林の美しさの背後にある人の役割にも目を向けさせる必要がある。今回の教材は、「社会科」に限らず「国語」や「道徳」などのさまざまな場面で活用できると考える。

* 寺嶋…千葉県中部林業事務所 (Tel 0439-55-4970)、ブログ：「森に親しむ談話室」<http://blogs.yahoo.co.jp/ytrshm>

** 山下…〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 Tel 075-644-8219 (直通)